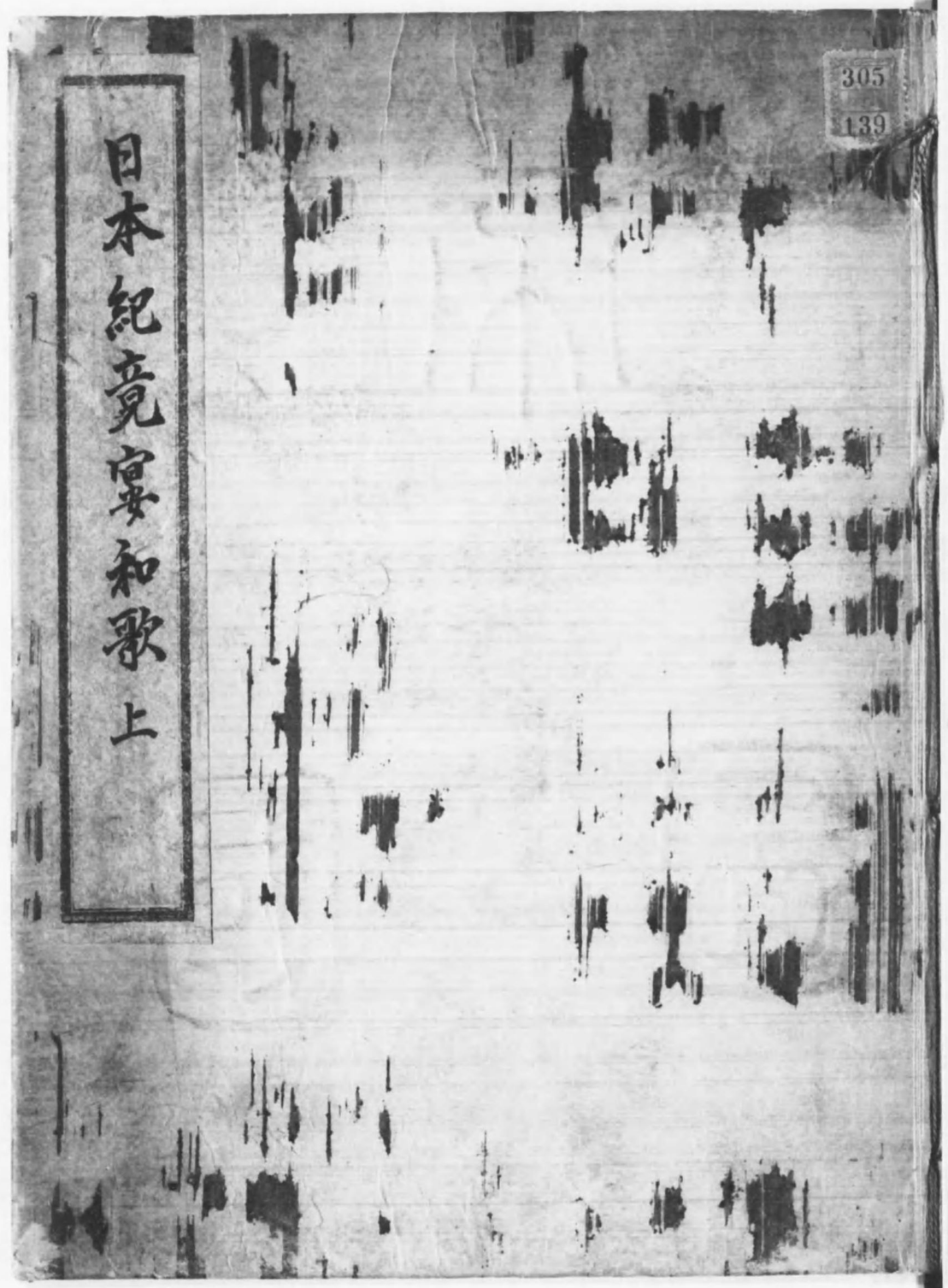


305
139

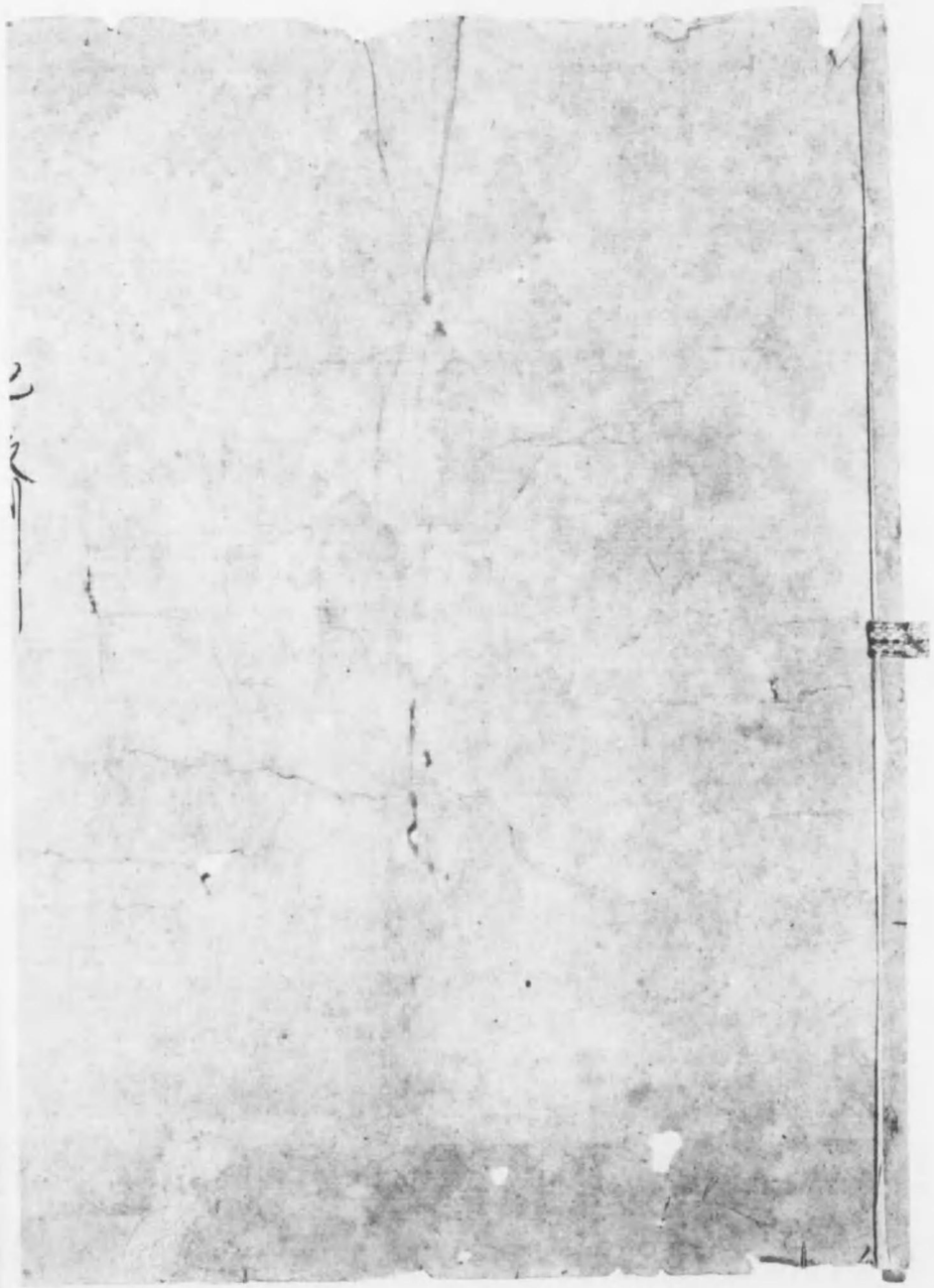
始

日本紀竟宴和歌上

305
139

古典保存會

甲七號



甲七號
日本紀元宗教上

肥後州
星山庫書両軸之内
此一軸墨附三十三紙也
毎帖一紙

養老五年始講　博士　従五位下大江朝臣安麻呂
弘仁四年講　博士刑部少輔大朝臣人長　外記日記注弘仁三年
承和十年講　議従四位上清野朝臣貞主
外記日記注博士散位従五位下菅野高年
元慶二年講　五年畢　六年宴
助教従五位下善淵朝臣愛成
延喜四年講　六年宴　紀博士矢田部公望
明経葛井清鑒
承平六年講　天慶六年宴

日本紀竟宴各分史得大鶴鷸天皇二首　元慶六年

皇太后宮大夫藤原朝臣國經

氣不利奈波也度遠女玖乞須女良已曾也曾度
世阿未利玖余乞良乞氣礼
け小りけきやとゑめ乞みしちめらこそや
ゐとせあ可りけ乞ふしら志けれ
於保殷乞波多加都乃美也乃安女毛面遠布

可世奴古度乎多美波与呂古布

おほきゝたかつのみやけあをるをみて

ねことをたみはよろこふ

日本紀竟宴和歌　延喜六年

日本紀竟宴各分史得神日本磐余彦天皇（かむやまと　いはれ　ひこのすめらみこと）并序

後五條太政大臣記　畫周防權少掾宿禰理平

日本書紀者一品舍人親王從四位下太朝臣安萬侶等奉勅所撰也神代上下紀帝世廿八紀惣三十卷筆削成功其勤至矣此紀元慶敍筵以來二十餘年倚席不講時人竊歎師說將墮

甲子歳降　綸旨令大學頭藤大夫說之大夫下意乞問上口而荅舉前儒之手弟髮後生之耳目況点教而無倦勸以傾懐始於四年秋八月廿一日終於六年冬十月廿二日即同十二月十七日卿屈師禮以成竟宴于時在朝公卿大夫莫不畢會雪數巡酒後座人身勢宜歌舊史各述緣情其詞云

渡飛加氣面阿麻能伊波布祢多都祢互蘊阿岐都志麻爾波美野波志迷勢面

とひうけるあまれいはふねたつねてそあき
はしまよハみやはしめをる

みそめられみくきしみられみと
とくし世五歳れるどきのたりはと
りあまはしみれやたてしきみち
おおられひくるすれほりを
しるしめそそのくちはるかれれ
くよハれはみくはうしみよをうる
はぬのことろてむられまそ
あひきしろつりりたしほてれ

おされれいこれよりひむう
よありのいそよねりてとくた
れるそのあるよきくるあわとわれそ
くよくめてみやはくりてあれ
ひはまをひろあむこれあえれしたの
をれるれるつみこたちこたつまい
くくりれりりとそのとまあらい床
をひきあてひむうしをうちたるつり
またるもめくみこといてましてを
うよれほりてれたまいとみるれもの

たゝそれほあきたのそれめとるかことを
をあれそれとこれよりはめてあき
たしてそれあかとといわ あまこかてむ
れれそうて

得國常立尊（くにとこたちのみこと）

従五位下大蓼頭藤原朝臣春海

葦牙廼那微能幾佐斯嘗度保迦羅須阿麻
都比津機能波志米度毋弊波

あそそれのれみれきそそほかそそあ
まはひきのはめとも つそ
ああつちひらそるはゆうそれた
ようそれうまひとそのありの
うたちあそれことそるのてかみ
それけりこれをそるとこたちのみ
ことふそをこそみのよれはめれり
あそれハあのはれそあるかたち
れそて

得日月命（ひのおみれのみこと）二首

參生蔭子從八位下葛井宿禰清麻呂

伊佐表志久多陀斯岐漏知乃於乎迦斯佐斗
互曾和我那毛岐微波多未比斯

いさをしくたたしきみちぬおむうらさき
てそわれはたまひし

うみやまといのそれひこの天皇いろを
をひまるてうちつろふをつめん

とそおもふきたまふよやまのうち
きのうらてしゆろうみちをも
そなけきまふよのゆめよあま
てるおほえのまはしわれたう
ろをやむみちひきとをとをと
かそそらりとひろふしり　未光
ろめよろれつることをよろこれた
まふときをひれおみのみことはいそ
れをひまるてかろそれむふまろあ
しきゆしをめらほめてれまはと

なむちいさをしてよろみちに
たりけるあらためてみちのおみと
いのそんといつりけり

以婆禮比古美流伊米佐女五耶駄賀羅須和礼
斗雷府多理美知波素志弊祀
いはれひこみるいめさめてやたうられわれ
とそもたりそちめてきてつ
うろよみるこにたり

ありれほひのみこと

得天穂日命二首

御子生蔭孫従七位下朱雀部宿禰公望

阿麿能廣臂俄爾農美餞野敢耶佐賀耳廼
伊朋清偏波屬濃儀莽登坍梦耆鶏
ありれほひこみれみおやはやきうのれいほ
あはるあたまとこそまけ

ちちのをのみことみまのみつらよ
まつるいほつそりるといふたまを

みそのにおりてありはらひのみこ
とをうみたまふ

倶娑幾歳儺擧都夜謎豫斗底婀緯機蘿
乃矩兕闭多智佡芝莫裝嗚那梨氣鼙

くさきみれことやあまそてあしはらのく
まつたちあしいきをかり合き

あまてるおほみかみれもつみまを
あしはらのなかつくにのきみと

をんとあれときくよそのくにのさまを
つれてあしきくみたちあはかりた
くさきみれそのいふたのんもてひの
みことやをほよろはのくみたちを
はとくとひたまふしたれのられ
しうくにのあしまをのをそらひ
にはうそれつきみれいそくしあまほ
ぬみことこれくみのいきをかり　とも
てはうそ　てたひらけとんと
しつわ

いつわ

得櫛玉饒速日命（えしたりたまはやひのみこと）二首

學生蔭孫從位藤原朝忠紀

蘊朗美都迩阿麻能伊婆布然孤陁斯志波比

志理迦嶽餘素和多須登傳那理

そらみつよあまのいはふねをこぎでしそれ

まりのみよをわたれとて此り

かみやまといはれひこの天皇なれ

はひこをうちたがみときたなれ

はひこをまたしていはしむ

うつあまつうみのみこいくまして

あまのいはふねをこぎでそらより

くりまをりなをそうつまおき

はやひのみことといふそれをまん

としてはうまれりいそかあま

はらみのみことふるはらあやてひと

[illegible]

ところをはふつきとをめらせくたま
はしあまつかみのみこおほうしむ
ちかきみとをふまことれらのそしろ
しをのみをよしうそはひこあま
ぬはくやゆきらをたてまつれりをめ
らみそなのそしてぬたまはしりこ
ぬりけりさてまたこれよりあま
ぬはくやゆきをはうのそしてみをる
まふよなそはひこあまくるを
みてはくしみうしこまるといり
ちこうとトハこそくさこうろうさい

またよきいはひぬみことのあまぬい
はふはよぬくおほそらよめろり
あるしゆつるのろをそらみつや
まろのろるといみ

毗佐迦陀能阿麻農婆波耶能那賀理勢波
阿羅布面比度袁那迩迦牟昊斯

ひとうたのあまぬはくやのぬかりをそ
あふるひとをぬまのむけま
うろよみそたり

得王辰命

少内記従六位上藤原朝臣博文

參能那呵屋吉美那賀利勢婆嘉羅須皤命
加氣流古登皤ゝ那廣幾爲奈麻志
よの肌うるはきみ肌うるわせはかられはよかけ
ることはゝなほきうらはまし
こまりうらしのはよをを
うまてたてまつれりそのはろろ

けれはまりうたまをこの王辰命は
をゝしのなよむしてまろきあま
ゆうはしてわきまよめり

得事代主神（ことしろぬしのかみ）

武部少尉正六位下藤原朝臣佐高

須女美万仁夜志志乎佐利五奈美能宇倍乃
阿遠布事加幾迩多比爲須面可那
まあみまよやしまをさきてしみのうつ
あをみ（うきてよたひみそろる肌

あまてるおほん人のをめみまあし
さらのなるろくるよれきみたらんと
てかみたちをいけそのろるしけの
はておほあれをちれうみをはら
ひけめたまるよおほあれそらの
みのいさしかるくるよとひてかみこ
とまろ　　こと　ろねの
うえのみほのさきよいそしけりをる
ところよけうひをろまれくそろふ
よトやろうてしけころしけらこ

なよよをてみことのりれうみこと
まろさんことをとふよこと　ろね
　れいをそしかくそをわまろる
てとをてかるのなるやのあを
かうまをけそかてをちねといか
うそいちをよろてはつまいか
なるろ

得思魚神（おもひうをのかみ）

左大史正六位上金築博貞保朝宿禰

東京大学総合図書館蔵

於蒙飛加祢多波賀利許度乎勢佐梨勢波
安万能伊波度波飛羅氣佐良万事

おそひこうはたのそかりことをたりきのてあ
まのいのそとはひらなれらまし

あまてるおほうへをきのをのみこ
とのわをあちきなしとてあれ
いのそやよいやていのそとをとそかれ
まれときこまろのうちとそなへよ
してひるよるおのうはるをそら
ぬよおそひこうはれうへをおもひ
こうのてとろよのなるはきよりをあ
めてなうとたちうをのうへをいは
よわきまたてたわあまてるおほか
みほそめよあなそみそれをそた
ちをのうみおほれうみのみてを
たまのそりてひきいたし　たくまれ
りなうみいむのかみらしりろ
はをひきわたし　てまうとそくま
たはうみあまおとこ

ありこうろうとうをとと

得天手力男命（あめたちからをのみこと）

外従五位下大外記阿刀宿禰春正

此已也美母多乃之支美与止奈利介面波安女
多知加良乎多須介安利介利
とゝもみそたのきみとなのけるもそ
あめたちからをたのけあわなわ

おうとひろはのうみのうとのまみ
えたり（ところたひこ）

得猿田彦（ところたひこ）

刑部少輔従五位下紀朝臣淑望

比佐加多乃安可乃也弊久毛不利和計天多久
利之支美乎和礼留無加弊之
ひさのたのあまれも一ろもふわけてろ
ふりまくをわれそむて

あまてるたはえのみとみつほ
ろくろくるわまちとしるときな

きいはらひうめて万うせろあ
まのたちまちよろうみあわどおほ
むうみあれけうをめをはうそ
て とはめたまふちまたた
うえくらしくいのてくあまてるお
ほえたみくろはまれて と
すてむろまちまつるなり
わろれをはもるたひうえと
いふとあまのうをめうみ その
よしをまうをときをまをつみ
をうろいを

まあまのいのそろをおをれち
あれたつろを をいのちわまち
わまてあまろふまれといわ

得玉依姫（たまよりひめ）

刑部大輔従五位下大江朝臣千古

四羅難滝今多万餘理毗咩能古志已登波奈
磯砂也都比今来志利難理計武
しられみよたまよりひめ大こと
なまをたつひとりり刑りなん

たまよりひめのそれよみむ
をめといふ

得太玉命（ふとたまのみこと）

諸陵頭従五位下物部宿祢安興

北佐嘉多能阿麻五流河美乎伊能西度雷
要多毋須恵と介奴佐波志五氣西
ひさうのあまてらこみをいけるとそそ
たをもろうてよねをもて一てんる
いくいこう

日ひうえあまてらいのそれみこそわり
もときてよありのちこれみことり
さうよゆをりしてふとうあれ
みことを一ていはわまうさ
むろよひのうえことのそのうえわ
一きをきてほそめよいのと
をあをてみそれはのしちうら
をのうえとのわまよかそれさまえ
ておあをうてひのうえれひ
うりそのうちうちよみちねといふ

得巴提便

従五位下守左兵衛権佐藤原朝臣忠房

多礼母古能加奈之幾止支波美遠酒天と家
羅乃之多支面那母多知奴部之
たれをかもしる人にさとらばやみをれして
ちるのたまぼこなれてかな

はるひろるしらつゆとてかつの
てふうさろつゆはうのそされて
めこをろとんまるりしまろた

[illegible]
るの分をひろれてとゝりれるま
わるをまようをてゆくろとし
ろをしろそのよおほまよゆ
きまれるあけてもとろことの
はるけるあとをありおつれうれを
とわぶろひをまていをほのろま
たろはいるまていをそはゝみて
みゝとのわをうをてろみちま
たしはむゝとはこをあゝ見てお
ゆのわせをてうめむられりなん
うゝゝゝゝゝ

ちそこをめあらんことをおもひ
よしわのこうをよたりいのちを
うしなひたてんことをおもひむら
いたんとそすまれるひりとらうち
をあいて、そはんとのはれひらち
ゝ、てとゝのゝたをとりみよ
のゝてきゝうゝてうゝをは
いそかれりといて

得段揚尒

従五位上博士兼備藤原惟宗朝臣範
伊蒐斗毛能布鋪餘乎飛止波哆珥也宇珥
古礼乎无祢止雪度毛尒乃利止流
いてんのふんよんひとをたるやうみれ
をむねとそとゝをよれわとる
ろゝよりて五位博士をゝてまわ
てけを段揚尒よろんとまうを
れいろけるのてをといて

得天萬豊日天皇
あめよろづとよひ

後五位上行治部大輔兼播磨權守勝朝臣

乎須國乃能理多礼多末布於保美与波那尓
破能那賀羅度已曽支已由礼
をすくのりたれたまふおほみよはなに
はのなからとこそきこゆれ
このもめらたなるものなるみと
よもきるみれこうはけりた
まつりそのちはこそをは

散位從五位上源朝臣兼仙

得木菟宿禰称

都玖毅久称須女羅加美許珥那加弊世流許
已路波幾漁遠伊婆布奈理氣利
つくもくねすめらのみこなるつまる
こころはきりをいはふなりけり
おほきさまの天皇むまれまれひ

つろうもんとひれわそのあ
したよほんたの天皇大臣た
けうちもろねをめ　てれた
まはしこれいられるそこた
ろうをろよきーろしりき
れふおのつまろうむときよせて
きうもんとひれりうれをあ
やしとをめるのうたまのそしわの
こと大臣のことを川　ひむまれて
とをしろ　ありそのとりれ
なをしへしてこと　ろ

なをしへしくみこをはおほせこ
きの皇子といひ大臣れこをそつ
ろねをいひてれちのよれ
るしとせんといろ

得土倉阿弭古

前刑部大輔従五位上紀朝臣毎世

阿弥波礼面安比古尓阿比天阿知支奈久三年

之同解由無之

あゝはれるびこうよあひてあちきれくもと
せのあひしとろろるよ川

おほそらの天皇はみよつちろ
らのあひしこと　をとろくたて
まうてまうせろつけるあみ
をハりてとめをとらまつるよかて
るをハろもめてもめらをけの
きみをめてとそまうれな
よもそハこうまうせろろと
りろたろよおほろろえて

とりをとろうんみろのひと
れをろちといふをめらをけれ
まゝまたまひてこひならをめ
たりよハいろそろのほとをを一を
一てをうるのをてあまつ
けちひをきをきをこよつけて
むきのろつまをてくたてまろ
そのひをめらをものこよいそま
一てあまたのきを一をとろぬ
たまろこれいれたの川りとい
て

得保食神（うけもちのかみ）

従五位上行神祇大副大中臣朝臣斎

宇介毛智能加美能知加良波伊津久佐能多
那津毛能乎置美与利那志多面
うけもちのかみのちからのそいつくさのたな
つものをそみよりなしたる

あまてるおほひるめのまはしあ
らのなりくらくちはみ
うらしまのよしのしらくに

ありよしむろはらちよりいひ
てわたるよむのつはものひろきは
たのをきろちよりいてやまむ
こうはけのあらまけのおこきろち
よりいつそのこうせてうしむ
まとなのてまたろをこのそのを
みよりいそといて

歌題天皇

得淳中倉太珠敷天皇
ぬなくらふとしきのすめらみこと

正五位下守右衛士督兼行鎮守将軍藤原朝臣

嘉良須羽迩墨毛見別奴玉津沙波君賀御世
曾獻氣流
からそつよもをみわうねたりけとて
ふみの尺よそたてまつるわける

壬辰余うよめるうゑのもめる
北みよのうゑ刷り

得天國排開廣庭天皇二首
あめくにおしはらきひろにわ

後岡傳衍奏事慢傳守三箇朝臣清

[illegible]
とけたあまりやけたるをこゆるたるのこまま
みそさあはいおいそくぬる
[illegible]
[illegible]
ひのうまれむらのひとたるのよれ
ほめそれそむよきこまをみえ
たわかけをみてたうこいそえかる
くおそをうゆれきのうるれあり
れるおほをたるめむまれ彫り
うひとめてを一くれたりそ
[illegible]

ちるうるたるのことうるひてた
まをうるわたるること十八丈といそり
そそくうのむまあをめ　そてあそふ
とみうし

得下照姫（したてるひめ）

信濃衛門尉木曽源朝臣當時

賀羅古呂裳下照姫能勢那慈雷阿女仁幾古

遊西鶴奈良奴称波

うらうるそ　たくるひめのせ乱うるあ
[illegible]

光まさるゆる世るれらるれぬは

一たくりひめはあ光ゆるめ
なりそのをふとうせるときる
一ふるゑそるまきるゆとゆるり
たからの玉よけるさわよないて
こゑそるまきるゆとゆるそれをつ
らはいるなるろ

得伊奘諾尊（いとなきのみこと）

得伊奘諾尊行式部大輔春景備尊勝寺

阿遠宇那波羅伊散那相美麿波代保夜私摩
満勢岐去跡裳能我薗途雷阿理氣流
あをうれはらいされきるれハおほやしま
万をきとるこのうそるそあわけう
いされまのみこといされみれみことあ
まれうきはしのうつよたちてとんよ
はるれてれたまはしたはそ
うるうれうるれうるれ人ゆとそあり代たり
ほこををきーるたーてさるるるあ
をうれはらをうたはそのほろ

[illegible]
さきはまり　たるるしほこゆてし
まとなれわこれをあのうえしまと
いふふのかたうのしまよりたわ
まりてめをみるとなかい　えるしやへ
をうえいたりたりそれうれうるあ
はちをはるとせりおきををはふ
たるるふむめわこれよりおほやして
れなのてしまれるそのつきようう
みのはやまをうみきれおやうれ
ちうるのおをうれひめをうえて
[illegible]

[illegible]
れたまはしたれこれうみはあ
めのたれまえをむまさんやそ
ひのうみつきのうえをうむつきよひる
こをうえてみとをうあたて
をとうそう

得豊御食炊屋姫天皇
とよみけかしきやひめ

右大臣従一位兼行左近衛前将藤倉卿

堤平波豊浦宮ニ都畿置女王世〻乎部奴礼也

水波毛良伝須

つみをかさとよろのみやはよつきそめてよくを
つねれとみはのそそらもこあ
れをめらとよろのみやをてろろる
よはまたろろりおほ きおほむ
ときよ聖徳太子うしたまのそし
ひとのいれちのそたつろることよよる
たはろろことはいけのはしみよよる
そひてゆよあひねれのそたえそ
こをうらえつ とろろよろろれ
ろよよみことれりしていけをは
うめんとをめらよろこひたまひて

ありたれいけをはうえてれち
ああのーたひくわのろれ一れしお
ほむたろうゆたのれることあわとろう

得天命開別天皇
ああみことひらかしわけ

朱議左大臣従二位兼侍従兼紀伊国長官雄

佐太奈美乃与須面宇美信尓美夜波之女与ろこ尓
多江奴加支美加美乃知波
せろれみれよそろうみろよみやはーめよろ
たろねのまえうみよちの

ふみとよみむとせとふるあふ
みえのうるはしみやこうちのした
まつり

得天淳中原瀛真人天皇
ありけねなるはらおきまのあうと

参議従五位下兼行兵部卿兼修造東大寺長官藤原朝臣

与古加波能安多利尓多知之久毛乎美五阿麻
乃比津久波衣五之久美奈利
よろこうるのあたりよたちしくもをみて

ありけひつよふえてしきみなり

天皇ことあつりあつりよいわり
いときよるこかたるよいたりてうえ
まろをのひろせとはちありいなる
かそるよわたれるありもめらあ
しをみてうるうれひて
まはるあめのたはたはよわ
うるしるてなりわれつひよあ
けたをえてむといつり

得氣長足姫天皇
おきながのたらしひめ

参議大蔵卿西園寺朝臣

日月乃行久星躍波乃者西止毛新羅乃國波
加知波乃和乃久 天皇討那新羅之時新羅重誓曰非東西
出西河石昇 蒼昇辰不乾船柁不爾春秋
之朝貢
故云

ひつきのゆくほしをどるなみのもとにわがこそとんーら
まれるくにはうちもそかはその

天皇新羅をむけたまふとき
よそのくにまれまうおちわれまて

みなのまつくるまていはそと
いまよりはちあまつちとうるまむ
まうひとれんふねうちをうるそか
きれむまのくるまむれむちをた
てまつんりたちて いはそし
ひむりはひのまいてこのはの
りのくほそ あまはほしまれ
うそよりいとうるのみつまそ
はたあそうーとうそ

得橘豊日天皇
たちばなのとよひ

参議豊作卿播磨守藤原朝臣清河

多知波那能須女羅乃支美遠〻之美介無多須
那可志已止和礼毛於止良之
たちはなのすめらのきみをしみけむ
をれうまことわれをもとら

うれ天皇みやまひしたまふときま
ろうつかのたれなまろうしてを
〻やはらのれを矢らのおほむためま

さしのれたまふとのまし
いつ〻ておろれもてんとまたほと
けれみのたてろれとをはろわたて
まれりいまのせ〻のたてろの丈六
れほとけろれちま

得御間城入彦五十瓊殖天皇
みまきいりひこいにゑの

参議豊作卿従四位下行宮内卿兼鎮撫守十世

多〻称古乎無止女佐理世波也女尓見志於保毛
乃奴之乃可美安礼奈志

うゝはこをこそものたちの世はゆめよみしおほ
えのゆめ　北、うゝあれなれ

うゝ天皇のみよれいことゝふみを
このうちしはうれうれをめらゆう
はあみえのいみーておほとのう
ちをきよめていはりたまのそわ
うゝみをみやまひたてまつることの
おろそうれるこうねうハえをゆめよ
をーつたまうとそのよれゆめよい
とあやておほとめくうちよむうし
たちておほえのゆ　のかみをれ

よやていかてくをみうるのを床
まうをうることをまたれうれつふ
わうこうれのをわのうのおほた
たはこをーてわれをまつうはをみ
やうよたひうきれむとれめらゆめの
ことはをよろこひてあえれーたよ
おはたくはこをそとあたまのよを
をよむうよりたてまれりをめら
あをちくうそおほきんたち
をーとくおはとはこをとひた
まのそなんちはれうそこた

一ていはてゝおほをのめしよろこいと
をめらせたまふのてゝわれさのゝ月む
せそおほたゝねこをしてをのく
めやそてのつれるまつわをのを
をたゝめておほをのめをまつら
むつをゝえられやまとけめてせみ
ゝのれうちしはまりぬ

得日本武尊（やまとたけのみこと）

参議宣行従四位下藤原朝臣有貫

也未度多介仁之比无賀志乃久尓遠宇知天太

元良介与せゝ美古仁波也良奴
やまとたけ　ひむ　れゝをうちて
しひゝけよを　みゝくまのてゝゝね
おほたゝしひこおし　スわけれち
皇やまとたけのみことをはうのて
ゝゝゝまおそひをうためたまし
しくまのゝよしはまれりといの

得大泊瀬天皇（おほはせ）

中納言従三位行民部卿春宮大夫藤原朝臣有穂

美濃利須面幾見加弊天面止天久女波加仁比度
古止奴之曽以天志世利介面
みつわをろすうろとてろめうはよひと
ことねそ　そてまをりたろ

この天皇うろまやまよかわたま
わよたきたのきひとあわうはれ
うためろてたてまれり　もめろ
うみやろしめれとんとひてれ
たまはしいけるのすえそこまて
いのそしあうひとみなりまつろれ
しし

いをれのりたまあめをろわれとはば
むとれめうこたてくのたまはし
われいれのたけのみうとれりのとつま
まうみれのわそいはしやけろれそ
ひとうとぬしれえれりとそとん
ようりれあそてひてしをおひ
てやはれつうとをつわむまめろ
ちをれうはしうめそうとはみ
やまつりひとれうりやとん　うわり
をまうれうえうめうはまそうおを
りたてまれりといい

得聖德太子

中納言従三位兼行陸奥守源朝臣貞恒

以可面可能那義支乃見也尓多天之乃利〻尓
乃散加之支見与尓安不可那
そらのなみまのみやまたて　ゆわ〻り
ゆさのきみよあふる肌
たちかのとよひの天皇なみま
みやまあれ太るゆみおも
〻

なりまたるのみくいるるるみ
やはるわしたまりおれ天皇
ゆ十二年太るみつ〻いはる
きみゆ〻とゆちあまりなを
ちをはるあり奏したまり

得武内宿禰

大納言正三位藤原朝臣國経

つ久〻弊て久う多ちせ〻尓ゆ支見はむ

国史第十三名臣十五

よろゐめらふつの教文ふなわ　国法第十三称春往邑　天皇其依于今二代故
つろしつてゐのたちせしみきよまみはお
よのにめろよつえきるよんなわ

ほむたの天皇たけうちにみねを
ちろしみにはのそしておほむた
うらをこうむこつみしめたまわよ
たけうちのをそろねのおもうとむ
ましうちのをそろねをわろよまう
さくたけうちをそろねあ兄のした
をねうふろへありとたけうちをそし

ねこれをまうておほすまくれつて
わねよりけうていたわてにそれ
きよしをまうすをめらこうむこえと
ひたりわよおかのあらそひてさた
めこつたしをめらみことおりして
あまつやしろくにつやしろよまうさ
てしまのかそのほとりにてとん
よろりたちをせしむるよたけうち
をそろねいうちねといつり
ろのたちはゆをとくろなのるろ

得樂田天皇
（ほんた）

天長後筆行智奏遊徒人狩猟光

波之敷多流不面幾宇毒磯遠須五年仕雷
散邪計起毗比表登保政幾許遊流

とーつたろーつるきうまをもくねはそと
やけきひしまとねろきくゆる

この天皇ゆたまのそろおねけふね
ありなそれゆれゆこのろよゆた
てまろれるれいまはろちてえ

ちひうたてひさしろおほけそ
ゆたれいをみわそれうたゆそ
うこのふねゆれをーてのちよ
まてははたふつきとそのねね
ゆきをとゆてたまるーてしほ
をやまてあり方はくろよたよ
ひてふねをはろらーめたまふま
たーほのたきてやーてたろとき
まえろひのやたねありあれし
みてたてまてのれりをめろことよ

はるゝ〜めたまつるよそひこちゝせ
ゝ、うゝ　とほるきこゆとゝの

得大鶴鶴天皇
おほたづる

左大臣後信濃守近衛大将藤朝時子
多賀度能児乃保利天義礼波安女能之多
与女尓計布理五伊万稙渡義奴西
たゝのよ北ほめてゝれいあ久の　たよそよ
けゝりていまそとみぬる

ゐもめらゝよしろ　めゝとせと

ゝよたゝのよ北ほりまて
ほゝ北ゐみたまゝよさゝゐ北ゝち
けゝりたゝをりけれいたみのまゝ
しきなりとおゝほゝて　みゝを
みつゝをのはたゝあつゝとなゝ
てめゝ久たまゝゐゝゆまたみゝ北ゝゐ
ゝせゝれゝゐけれいあ久ゝせいゐて
おほむそをゝくるほゝほのひゝ
りゝをりて　みゆゝそあゝはなりそ
北ゝちあめゝをとゝきの　たゝひて
たみとゝ　ゆたゝ所りまたお所ゝき

[illegible]
[illegible]
たまゐよけりおはらたてれいれ
たまはしわれをてよとえぬとおは
よそたうのみのみてうるる
まのこと千七年といり

得雄朝婦稚子宿禰天皇
むあさつまわかこそこねの

武部卿是忠

可樫乃丘乃久可太知支与今礼波尓已礼面
多見らん可波祢数末く業
[illegible]

あまのしれきのうのたちきよけ
これうたみをうはよしまし
この天皇はたまはしいなのうよ
をこはむることおほはたこうとと
天をうてこうはよたのふことなし
いまわれあまつひはましてよ
ときこうえ[illegible]あひあうそひてお
ほむたうやをうあるいをあ
やまちてあのうくはよをうしな
ひあるいはこことはうよたうきう
ちをんとむわれをを[illegible]といと

そのたらつをたしせらむ
やとそるくれうちれひとゝめよ
ゆはあみをのいみをもめてあり
うゝのをこうよりうつをもちて
えのたちやしめていふゝまこと
なんひとゝまたろいつのそれえん
ひとはやみれとそれよりれちう
ちのはをたまりていつはるえの
おはむたこうとあそたみを
いよろうとはゆをもろるほとをす
ろう

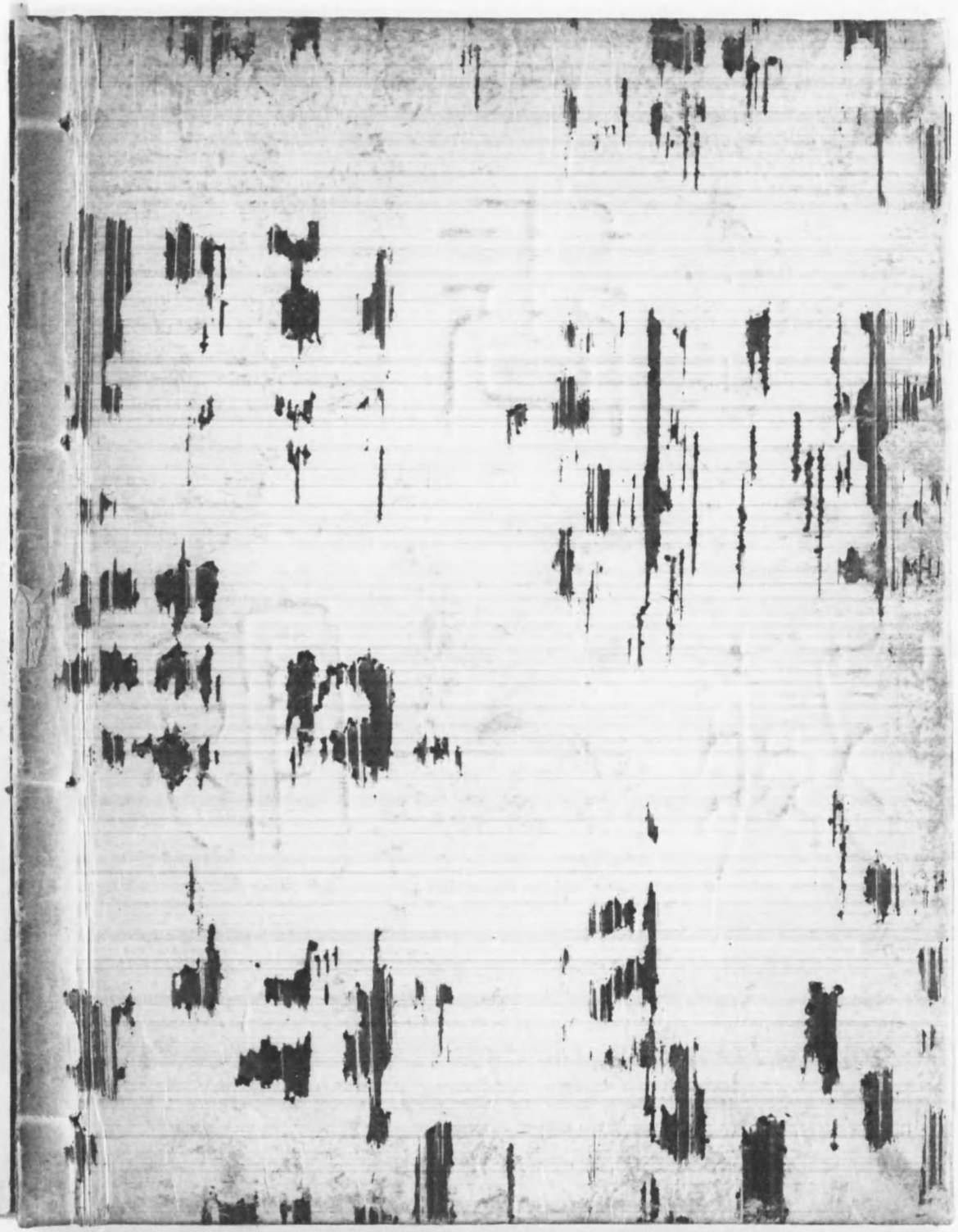
得瑞歯別天皇
みずはわけ

兵部卿貞保

見つ乃る能留こふく奈てろば奈乃ゝ
数女良みと度乃見奈度奈利介む
みたのみれそこすなつるはれのいろや
もめるみこのろれとれりきん
この天皇あるものみやよむまれま
りそのみのたちをてうるわう
ーてみそわれたまるのと

305
139

昭和十四年四月廿五日印刷
昭和十四年四月廿八日發行　（非賣品）
發行兼印刷者　古典保存會
右代表者　東京市下谷區山崎町七番地　恒
印刷所　東京市神田區錦町四丁目番地　金屬版印刷所
東京市神田区佐柳町五番地
古典保存會事務所
電話下谷六七八八番
振替口座東京四四九四八番

こゝよ井あい　みつのゐといふゐみ
てみくよあむ　たてまつると
まよたちたれゐ　ぬうちちよちあい
れりそれゐよあてみこゑゐ　ゐ
もたちはゐ　ゐそいまの　いたりなり
たちひのみつは　ゐなの　天皇とまう
をといつて

終